

原発と沖縄をむすぶ運動

鎌田慧（呼びかけ人）

いま、沖縄でこの原稿を書いているのですが、沖縄に来るたびに、「ああ福島」と思うのです。この二つの地名を繋ぐのは、「政治の犠牲」ということです。もう一つは、「カネの力」です。

沖縄の翁長知事は、保守ながら「オール沖縄」を実現させた政治家です。保守をまとめて、これまでの「社共共闘」の固定観念を大胆に破りました。

これまでの「革新自治体」の経験を乗り越え、中央政府と地方自治体は対等であることを実践しています。

仲井真前知事が、沖縄への交付金が増えたといっただけで喜んでみせ、「これでいい正月を迎えられる」といった奴隷根性を真っ向から批判して、「沖縄のアイデンティティ」をあらためて問いかけたのでした。

「誇りある経済」のスローガンもまた、沖縄の人びとを奮い立たせました。基地に依存しない経済は、沖縄の夢でした。すでに現実において、基地は地域発展の障害物となっていたのです。

なんと原発経済の破綻と似ていることでしょうか。原発地域の経済的、精神的自立がもためられているのです。

翁長知事の眼の醒めるような政治姿勢は、鹿児島県知事選での保守派の分裂と反原発派が協力しての三反園知事誕生、それに力を得て、新潟県知事選での米山脱原発知事の登場と脱原発県政の継続、という状況を切り拓いております。

たしかに三反園知事の優柔不断は、不安感を与えております。しかし、時代は「原発賛成」を政治家が公然と唱えることができない、という確固たる世論を形成したのです。

フクシマの壊滅的な事故は、原発が地域を破壊し、故郷と生業と雇用を奪い、廃炉と除染などに天文学的数字（21兆円以上）の損害を与えたことが明らかになっています。



事故によって逃げ遅れた病者や老人、放射能に曝されて救助されなかった人びと、将来の健康が心配なこともたちや被曝労働者、さらにその上に使用済み燃料の処分が絶望的なことも、重くのしかかっているのです。経済的な負担は、全部国民に押しつけられるベラボーです。

沖縄・高江の闘いは、あらたな米軍基地建設を認めない闘いばかりでなく、環境を未来に残す闘いでもあります。いま、安倍内閣によって、つんのめるように強引に進められている「オスプレイパッド」の建設は、「やんばるの森」の生態系を無惨にも破壊しています。

辺野古の、ジュゴンの海を潰して建設されようとしている、強襲揚陸艦とオスプレイの総合基地。高江はその付属の軍事施設です。それは再処理工場ともんじゅの関係に似ています。

安倍首相は訪米して、日米軍事同盟は「希望の同盟」などとエラそうにいいましたが、原発の「夢の増殖炉」といういいかたとそっくりです。

戦争は最大の環境破壊ですが、原発は戦争よりも広大な地域を破壊します。基地建設は環境破壊の基地であり、建設のときからすでにさまざまな生物のいのちを殺しているのです。

ましてや、プルトニウム中心の核燃料サイクルは、核爆弾に結び着く魔のサイクルです。

辺野古と高江の新基地建設を、安倍内閣は「沖縄の負担軽減」と嘯っていますが、実態は基地の再編強化です。クロをシロというのは、原発の再稼働を「会社の経営安定」（儲けのため）と経済の話にしながら、「核武装開発」の能力維持の狙いを隠すためのようでもあります。

外には派兵、内には美辞麗句と弾圧（辺野古と高江を見よ）。安倍戦争賭博内閣への対決は、脱原発と沖縄の抵抗とを結び、保守のひとたちにも支持される、やわらかな運動がもっと必要でしょう。

集会報告

■「さようなら原発 さようなら戦争 大集会」

(9月22日、東京・代々木公園)

激しい雨が降りしきる中を9500人の市民が集まり、原発再稼働や核燃料サイクルの推進、戦争法の具体化をめざす安倍政権と対峙し、運動を広げようと決意を固めました。



第1部のステージでは、福島県飯舘村の酪農家・長谷川健一さんが原発事故で一変した暮らしを語り、郡山市議会議員の蛇石郁子さんや『避難の権利』を求める全国避難者の会 共同代表の中手聖一さんも政府の対応に怒りを滲ませました。

第2部ではまず主催者を代表して澤地久枝さんが「政府は昨日、福井の高速増殖炉もんじゅを廃炉にすることを決めた。しかし、原発を全てやめることをなぜ言わないか。5年半経っても福島ではふるさとに帰れない人が多くいる。これを絶対に忘れずにいこう」と呼びかけました。

福島からは、「ひだんれん（原発事故被害者団体連絡会）」共同代表の武藤類子さんが「原発事故から全国で原発反対の行動が広がり、その力が政府を追い詰めている。しかし、汚染された大地と壊された暮らしを抱える福島のことをもっと知ってもらいたい。来年3月には、避難指示解除による住宅支援の打ち切りに直面している。『住まいを奪うな!』の運動に支援を広げてほしい」と訴えました。

またもんじゅの廃炉という大きな前進を勝ち取った福井からは、「原子力発電に反対する福井県民会議」の宮下正一事務局長が壇上に立ち、「プルトニウムを燃やすもんじゅは、通常原発以上に危険性や毒性が高い。冷却用ナトリウム、配管の破

断でも大爆発を起こす。もんじゅが本当に廃炉になるか、年末までが瀬戸際だ。政府に全国から訴えを集中してほしい」と呼びかけました。

その他にも、集会の協力団体である「止めよう！ 辺野古埋め立て」国会包囲実行委員会の木村辰彦さんや「戦争させない・9条壊すな！ 総がかり行動実行委員会」の福山真劫さんも登壇し、原発も戦争もない社会の実現に向けて連帯することを呼びかけました。

■さようなら原発講演会 第1回

「もんじゅは廃炉だ！ 黄昏の核燃料サイクル」

(11月5日、東京・連合会館)

まず集会の冒頭で、鎌田慧さんが「9月22日の集会は雨でデモは中止になったが、次からは雨でもやりたい。鹿児島に続いて新潟県知事選挙でも不利な状況をはねのけて勝利した。私たちは勝っています」と話しました。

続けて講師の海渡雄一さんが講演を行いました。最初に「もんじゅは、人件費を除いて、建設費・維持管理費・燃料費だけで2014年までに1兆3千3百億円を費やしながら失敗した。資源小国の夢のエネルギーとして1950年代に軽水炉導入と共に言われたが実現していない」と話した後、高速炉と高速増殖炉の違いから、各地での裁判での状況など幅広い内容について触れました。

質疑応答でも、「私見だが日本が核燃料サイクルを維持したいのは（核爆弾に転用できる）プルトニウム技術を確保しておきたいからでは」と話しました。

講演会最後に、長く海渡さんとともにもんじゅ訴訟に関わってきた福武公子弁護士は「今は福島からの避難者と共に国と東電を相手に千葉で裁判を起こしている。来年3月頃にかけて千葉をはじめ各地の判決が出されようとしている。こちらの支援もよろしく」と話しました。

講演会后、参加者からは「自民党の支持者でも半数以上が再稼働に反対しているなどの話を聞くと元気がでる」などの声が聴かれました。



署名活動 246 回目 1 万筆達成!

日立市・角田京子さんからの報告

2011 年 3 月の福島第一原発の事故は現在、過去、未来の日本を騒乱させるような大動乱を招きました。

この年の 5 月「さようなら原発 1000 万署名」の呼びかけがあり、澤地久枝さんは、「さようなら原発 1000 万署名を集めましょう。やればできる」と高らかに訴えました。

当時、戦争反対、憲法 9 条を守ろうと日立駅前ですタンドイングをしていた私は、戦争も原発も共通の根っこを持っている、これからは原発の署名活動に力点を置いて活動していこうと決めました。

7 月 9 日(土)から毎週土曜日のアクションです。日立に引っ越したばかりで、友人も知人も少ない「アウェイ」? での活動です。

太平洋を目の前にする時、海の波が押し寄せ岩に当たって砕けていく様を見て、そうか当たって砕ける? いや、当たって挫ける? かと。ま、どちらでもいいか、実践することでしか語れない話なのだから……。

毎週立ち続け呼びかけ続けてわかったこと、イヤなことあったけれど、署名をしてくれる人がゼロという日はない、いつもプラス。しかも「署名活動一緒にやります」という人が現れたこと、そのことで署名数が勢いづいてたくさん集まるようになった、ということです。2 年 2 ヶ月間位、1 人で活動していましたが、その後 2 人、3 人、4 人…と 8 人までも増えていったのでした。通行人には安心感を与えるようで、市民権のようなものを得たように思います。私 1 人の時の 2 年 2 ヶ月位で 2200 筆くらい、その後の協力者と一緒に集めた署名数、約 3 年間で 7800 筆です。

協力者が増える、ということはアイデアが増える、ということでもあります。原発のその時々問題点をパネルに表し、原発の歴史にもふれ、幟旗の工夫もする、日立ばかりではなく、時には水戸にもいわきにも行く、と多岐にわたる広がり

を作ることができました。実に楽しい活動、希望の活動です。

原発は、電気とお金は作るけれど、あとは全部悪いことだらけです。署名活動を無視するように通過する企業(国家?) 戦士・主婦・淑女諸氏たちにしても、きっと、電気やお金は好きでも、放射能・被ばく・避難生活は困るに違いありません。1 人でも多くの人々の署名を集め政治を変えるために、『原発いらない』の署名にご協力下さい』を署名版の前垂れにして、心新たに再出発、ここはもう「ホーム」です!



「1000万達成へこれからも」

角田さんの署名活動を紹介する記事
(東京新聞 2016 年 11 月 28 日)

◆さようなら原発講演会のご案内

「放射線健康被害のウソ

- ICRP のまやかし -

講師：西尾正道さん

(北海道がんセンター名誉院長)

日 時：2017 年 1 月 14 日(土)

14 : 00 ~ 16 : 30 (13 : 30 開場)

会 場：連合会館 2 階・大会議室

(千代田区神田駿河台 3-2-11 TEL : 03-3581-5650)

資料代：800 円